

森林 病虫害

島根の森の「健康管理」

～ 病虫害の発生を見張ります ～

研究の背景・目的

森林には菌類や昆虫など様々な生物が生息しており、突発的に大発生して木に被害を与えることがあります。被害対策にはその被害を起こしている相手を知り、効果的な対策を立てる必要があるため、この課題では大発生した病虫害の生態・拡大状況・対策について調査しています。

また、公園や庭に植えた木に病気が出たり、虫が付いて木が枯れたり弱ったりして、どうしたらよいか困ることがあります。こういった県民の皆様からの様々な「木の病虫害」の質問にお応えしています。これが島根県全域に広がるかも知れない病虫害の早期発見につながることもあります。



クロマツ褐斑葉枯病
糸状菌の感染によって葉が枯れます。苗畑・庭園に発生し、木が枯死することもあります。



松くい虫(マツ材線虫病)
マツノマダラカミキリにより運ばれる伝染病です。マツ林でしばしば激害になります



ナラ枯れ
カシノナガキクイムシにより運ばれる伝染病です。コナラなどの大きな木が集団で枯死することがあります。



ナガドキノコバエ
幼虫がシイタケや、培地の菌床を食害し、収穫量が減少します。

研究方法

診断依頼のあった被害の診断をおこなっています。その中で今後、注意すべき被害については現地で詳しく被害状況・加害生物の生態などを継続して調査しています。



昆虫寄生線虫によるカシノナガキクイムシ駆除試験



カシノナガキクイムシに対する捕殺試験

研究状況

ナラ枯れ被害は隠岐地域をのぞく県下のほぼ全域に拡大しています。被害を防ぐため病気を運ぶカシノナガキクイムシに対し、粘着シートによる捕殺試験を実施しています。

また、年間100件以上の病虫害の診断依頼を受けて、病虫害名、対策をお答えしています。

研究成果の活用・今後の研究計画

県下で発生する病虫害の動向を把握することで、被害を無くす的確な対応をとることができます。

MOUNTAINOUS REGION RESEARCH CENTER
島根県 中山間地域研究センター

〒690-3405 島根県飯石郡飯南町上来島1207

担当グループ： 森林保護育成グループ

研究担当者： 陶山 大志(すやま ひろし)

林 晋平(はやし しんぺい)

問い合わせ先： 0845-76-3822

E-mail： chusankan@pref.shimane.lg.jp

試験研究課題名： 森林被害のモニタリングと管理技術に関する研究(研究期間：H15-)

